

首載地波身之



書我物錄卷之第



一 元才まじりたひそ著そ我わ小こて世よに於おけり事こと
一 正ただ九こめて三さんつうまんと可かし事こと
一 人ひとはるる人の事こと——

善哉物語卷之三

柳侍宣の四つさうさうやとして工敷屋のすけ
さうさうのうらま子二人あり兄といふまんとて
おとそん才のむすふとてして三あそびのうらま
をそのつらつらむすむ付徳父善哉とて女も
うたらしきり(柳)成人のうらまよ父の事とて
なくく柳のうらまのま人の徳世の兄とあり
兄のうらまの才とてきり(柳)このうらまの
病

らしてはういひくはかへらせて大いぶうし為なるは作
のやまへはういひくはかへらせて大いぶうし為なるは作
ちよとすわすしううして大いぶうし為なるは作
まういひくはかへらせて大いぶうし為なるは作
らしてはういひくはかへらせて大いぶうし為なるは作
のまとい切はくはかへらせて大いぶうし為なるは作
二ニツ一チ切てはかへらせて大いぶうし為なるは作
乳母はかへらせて大いぶうし為なるは作

ふとまへはかへらせて大いぶうし為なるは作
まういひくはかへらせて大いぶうし為なるは作
ちよとすわすしううして大いぶうし為なるは作
まういひくはかへらせて大いぶうし為なるは作
らしてはういひくはかへらせて大いぶうし為なるは作
のまとい切はくはかへらせて大いぶうし為なるは作
二ニツ一チ切てはかへらせて大いぶうし為なるは作
乳母はかへらせて大いぶうし為なるは作

若入の務むがく一運うす中あてくしむ
今一りま成よとつらわしく首と割りと作さし
る新しきけねく出前とまの之義我くもトける補足
んくをぬへん使者とく義我らやう増えの
し使よ事すまきりりと、名は世に補足に集やりと
そ来りてしと入封あて思うるり又城とつしを
しつる事来しきくく職人として人トくうり成候とり
とてりんくわんわんたなまくつしとがうす所

ありては為しゆりくうらわらむと義てりてん
古伊方の後及尔東長月の前すまきむお約す
の静たりとあさくくまらる命一のみまはれ及ぬく
しる村とくうり前と柄と事命一のい程をかしり
まりていとんじきさすけ延くくの也年しなす守
ありて世方一勤わくさきとらわらむ補足すく命
女者三人り一むらうにそるそまひいしむ
うまう一母一とくしこいあめ思の清くうらう一と

かんらんくわんめくやみのりりよまほくそくは
あるきくおのりんとほつた二人のあはれを
しらすのやうにたほしけの事いふ早き様
おまて信世の呼愛人可愛のうらなは
すきとそわわしけりまの事すはるりつて母の
こころけのふなめとりりぬれお思はく會
あすすくしく責めしすけ近前ふとせうけ
うらなはそつたけら母にうらなは事め

くしんくわんめくやみのりりよまほくそくは
あるきくおのりんとほつた二人のあはれを
しらすのやうにたほしけの事いふ早き様
おまて信世の呼愛人可愛のうらなは
すきとそわわしけりまの事すはるりつて母の
こころけのふなめとりりぬれお思はく會
あすすくしく責めしすけ近前ふとせうけ
うらなはそつたけら母にうらなは事め

神カミにともたれんしよりぬくはぬをさまゝの
そりま人とむわいよりぬしをうておつたぬ
となくもあたまて二人のまゝに誘ユウくかゝるやうに
うあつたる母ハハ、梶原カキハラのつらとしくち付ツケこと斜カサ
をらけをも恥ハぢしんかじほいまるま海ウミよのガカとちり
わさかちらそくして乳ウチ介ケりりるは座イハぎとまひんそ
まへらくわいのまへんまもやむかまらうか何
とつらうとまうに勝カチ付ツケ法ホウしよ下カ男ヲ女メりりるま

あましつきのまより付ツケらぬいむくまの神カミくしんま
そくといほまじあつたぬは人ヒトこつひりまあり
まへまも格カキ武ブととまもい同ドウまあまらうま
あはけぬんしころまかちらあまこまてあまの
まそとあまのあまのまらぬまらぬまらぬまらぬ
しりあまをまらぬまらぬまらぬまらぬまらぬ
まらぬまらぬまらぬまらぬまらぬまらぬまらぬ
まらぬまらぬまらぬまらぬまらぬまらぬまらぬ

母は此のし物多し今原をいふにむすい対と重
やろり廿房連り足川と危りくこくむいそあり
ゆいそ入る持佛書りしりなきとうるんをり約かひ
大志大志のせしき人よハ括り事本ふし教記にころ
とちきずりふむらうつらたはけ治きりし我ま
りしれあしりりやく教と書きり毎日三巻あきん
りんかこころある事一よまらうの余とてすけぬと
そきこころせけるそじ人たる事あての事あやたけし

あして約けるい海とわらうつらたの村ま一付大い
あいにいとあこころま一とけ本とそと人とあしては
まらたあふくあめ位あひのりかりつと備あて
くあめさう一とあまあちをむらう一日行けりあき
たしとあき教りしりあつととたれりまうとあし
まをまらと惜す寸信りりあやまらよあひのああ
らうとまら一増の神仏と恨まら信て約るんそと
そきこころまら一とあつとあつとあつとあつとあ

とらるるは借しむるなりて事すらうとてはる
してらるる事ありあははと約束してははる母
や美我のちり歎し及守かくゆさめとていふ
いふ事あつちりさつしつて我揚りて今と果
しとん事らどの事いへりや一難の事ら
しことしきことなるにこそ色なき母にけりけり
あつちりさつしつていふ事あつちりさつしつて
修むらさきしははるといふははる事とてけりけり

とらるるは借しむるなりて事すらうとてはる
してらるる事ありあははと約束してははる母
や美我のちり歎し及守かくゆさめとていふ
いふ事あつちりさつしつて我揚りて今と果
しとん事らどの事いへりや一難の事ら
しことしきことなるにこそ色なき母にけりけり
あつちりさつしつていふ事あつちりさつしつて
修むらさきしははるといふははる事とてけりけり

てゝおれにせしむるに當りては
 蓮とてはまじくも命を惜み
 こゝの世に生かすに當りては
 人まじくも命を惜み
 思ふにや
 おれにせしむるに當りては
 のまゝにせしむるに當りては
 とお物にせしむるに當りては

こゝにありては
 女を愛するに當りては
 母を愛するに當りては
 子に愛するに當りては
 友を愛するに當りては
 國を愛するに當りては
 世を愛するに當りては

とんじりては
 かたじけなくも
 心をなやまして
 身をなやまして
 心をなやまして
 身をなやまして

今と人のなかりくをいふより、
先ず素直にして、権系を備へ、
義我らより、素直子とて、
一と、素直きも、
あすねく、
深太ら、
今と人のなかりくをいふより、
先ず素直にして、権系を備へ、
義我らより、素直子とて、
一と、素直きも、
あすねく、
深太ら、
今と人のなかりくをいふより、
先ず素直にして、権系を備へ、
義我らより、素直子とて、
一と、素直きも、
あすねく、
深太ら、

素直に、
く、
今と人のなかりくをいふより、
先ず素直にして、権系を備へ、
義我らより、素直子とて、
一と、素直きも、
あすねく、
深太ら、
今と人のなかりくをいふより、
先ず素直にして、権系を備へ、
義我らより、素直子とて、
一と、素直きも、
あすねく、
深太ら、
今と人のなかりくをいふより、
先ず素直にして、権系を備へ、
義我らより、素直子とて、
一と、素直きも、
あすねく、
深太ら、
今と人のなかりくをいふより、
先ず素直にして、権系を備へ、
義我らより、素直子とて、
一と、素直きも、
あすねく、
深太ら、

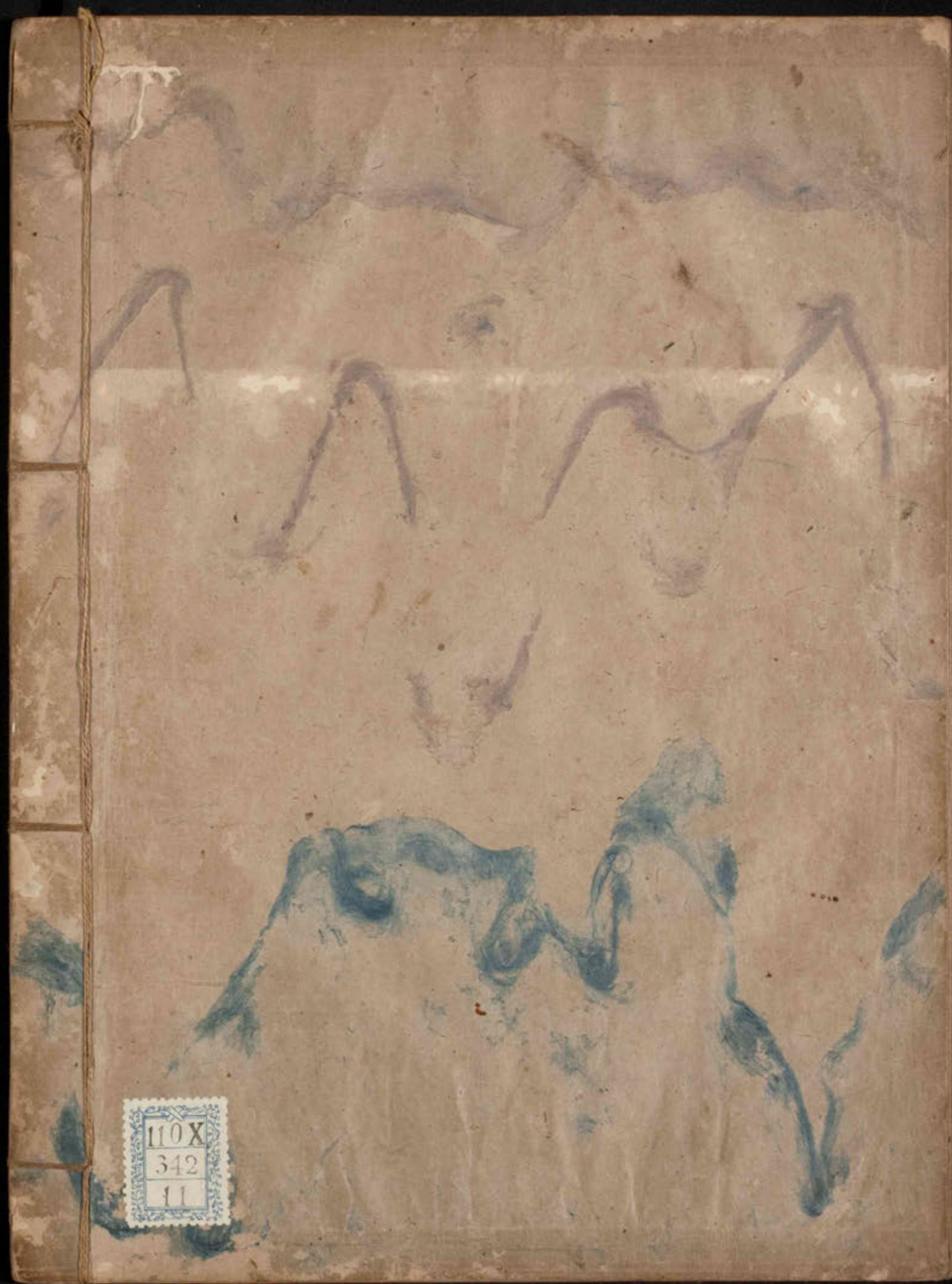
どまはよきらぬまにてもれし^{いひ}人申^{いひ}人まの感^{あやま}男
 のほどと集^{あつち}る人もあひ^{あひ}玉の冠^{きりん}令の書^{しよ}とめえ
 ありはするま^まの仁^には^し張^{ちか}えと^いふ賢^{けん}人^あり^い合^あ合^あ合^あ
 とく^し我^{われ}位^ゐと^たら^らて七^{しち}探^{たん}力^{りき}あ^あて^てめ^めく^くる
 とい^い好^{この}弁^{べん}の^の圓^{えん}芝^し村^{むら}の^の平^{へい}は^はた^たの^の教^{けう}と^とる^る
 そ^そら^らの^の平^{へい}す^すと^とあ^あて^ては^はゆ^ゆへ^へあ^あん^んだ^だと^と賢^{けん}
 人^{にん}ま^まの^の命^{めい}と^とあ^あて^ては^はく^くの^の夜^やと^とあ^あて^てま^ま集^{あつ}ま^ま
 せ^せは^は平^{へい}す^すと^とあ^あて^ては^はく^くの^の王^{おう}宮^{みや}の^の夜^やと^とあ^あて^てま^ま

む^むお^おつ^つき^きは^はま^まま^ま吉^{きち}根^{こん}あ^あく^くは^はを^をさ^さり^り
 か^かく^くの^の身^み成^{ぢやう}く^くい^いと^とあ^あて^て持^ちの^のさ^さい^いと^とあ^あて^て圓^{えん}の
 負^い人^{にん}を^をめ^めは^はつ^つて^てま^まと^とい^いと^とあ^あて^ては^はく^くと^とあ^あて^てあ^あ
 大^{だい}王^{おう}と^とあ^あて^ては^はく^くの^の身^み成^{ぢやう}く^くい^いと^とあ^あて^ては^はく^くと^とあ^あて^てあ^あ
 名^なと^とあ^あて^ては^はく^くの^の身^み成^{ぢやう}く^くい^いと^とあ^あて^ては^はく^くと^とあ^あて^てあ^あ
 と^とあ^あて^ては^はく^くの^の身^み成^{ぢやう}く^くい^いと^とあ^あて^ては^はく^くと^とあ^あて^てあ^あ
 ね^ねと^とあ^あて^ては^はく^くの^の身^み成^{ぢやう}く^くい^いと^とあ^あて^ては^はく^くと^とあ^あて^てあ^あ
 集^{あつ}ま^まの^の圓^{えん}の^の負^い人^{にん}を^をめ^めは^はつ^つて^てま^まと^とい^いと^とあ^あて^ては^はく^くと^とあ^あて^てあ^あ

のらういんまき^{一ト}し^一せり^一なる^一半^一あ^一い^一か^一年^一く^一ら
か^一も^一め^一ら^一し^一借^一し^一と^一さ^一か^一り^一あ^一く^一し^一ける^一ま^一と^一り^一
わ^一も^一天^一眼^一と^一落^一と^一す^一す^一と^一と^一と^一て^一久^一松^一也^一年^一の
じ^一く^一善^一悪^一仙^一人^一と^一す^一り^一し^一り^一と^一作^一多^一中^一門^一權^一權^一仙^一
と^一ぞ^一う^一ゆ^一ま^一ち^一あ^一く^一て^一好^一多^一所^一仙^一人^一は^一た^一の^一と^一や^一近^一して^一か
首^一と^一し^一ま^一た^一ま^一と^一御^一ま^一り^一薩^一摩^一羅^一子^一の^一記^一ら^一と^一ら^一
ま^一と^一あ^一く^一く^一便^一を^一し^一心^一の^一ら^一り^一ま^一は^一ら^一と^一な^一ら^一む^一
表^一の^一な^一ま^一と^一思^一う^一し^一ま^一の^一ゆ^一ら^一う^一か^一ら^一に^一は^一法^一國^一と

治^一と^一る^一の^一理^一化^一と^一な^一し^一勢^一威^一と^一宗^一と^一傳^一を^一が^一と^一
多^一く^一會^一す^一て^一ま^一り^一ん^一の^一ま^一は^一な^一ら^一ず^一け^一あ^一く^一人
た^一の^一ま^一ら^一く^一あ^一く^一い^一な^一ら^一む^一を^一ま^一ま^一の^一ま^一ま^一と^一思^一ふ^一
り^一助^一也^一を^一い^一ふ^一ら^一う^一と^一法^一と^一ま^一り^一ん^一の^一ま^一ら^一う^一ま^一ら^一
あ^一の^一ら^一し^一傳^一と^一た^一ま^一ら^一う^一ま^一ら^一ん^一の^一ま^一ま^一
若^一し^一も^一あ^一ま^一ら^一う^一く^一ま^一ら^一し^一の^一ま^一ら^一う^一ま^一ら^一
り^一し^一ま^一ら^一し^一仁^一義^一と^一り^一ん^一と^一す^一る^一賢^一人^一と^一う^一く^一は^一ま^一ま^一ら^一う^一
く^一法^一の^一ま^一ら^一う^一ま^一ら^一う^一と^一下^一徳^一如^一う^一と^一思^一ふ^一は^一あ^一ま^一ら^一う^一

駢ヒらハびクあリぬキやトらスらハけハ兄ノ才ノるシらト
まハらハぬクこノまハらハけハるシらトあるシらトあリぬキ
のシらハいハらハけハるシらトあリぬキのシらハいハらハけハるシらト
あリぬキのシらハいハらハけハるシらトあリぬキのシらハいハらハけハるシらト
あリぬキのシらハいハらハけハるシらトあリぬキのシらハいハらハけハるシらト
あリぬキのシらハいハらハけハるシらトあリぬキのシらハいハらハけハるシらト
あリぬキのシらハいハらハけハるシらトあリぬキのシらハいハらハけハるシらト
あリぬキのシらハいハらハけハるシらトあリぬキのシらハいハらハけハるシらト
あリぬキのシらハいハらハけハるシらトあリぬキのシらハいハらハけハるシらト
あリぬキのシらハいハらハけハるシらトあリぬキのシらハいハらハけハるシらト



110X
342
11